

『ここまでおいで』

私は負けず嫌いです。それも、だいぶ厄介なタイプです。

何故なら、負けたくない対象は『誰か』ではなく、自分の中にある『衝動的な感情』だからです…。

勿論、衝動的な感情ですから、その都度無理難題を突きつけてきます。時にそれは非現実的であり、自己中心的であったりと…本当に無責任なものです。

その感情を無視できればきっと楽なんでしょうけどね…、それが出来ないでいる。

何故なら、『負けたくないから』です。

『長いものに巻かれてりゃいいじゃないの』

『その組織に居るステータスだけで十分じゃないの』

そんな俗っぽい考えだって自分の中には確かにあるんです。それは否定しませんし、出来れば『そんな感じ』で、のらりくらりとやっていきたい…が、いつも駄目なんです。

どうしても、自分の衝動的な感情の中に可能性を求めてしまうんです。

『お前、そんなもんか』

こう自分自身に烙印が押されることを極度に恐れています。だから、心をいつも不安定な所に置いておかなければいけない。これが結構なストレスとなります。

しかし、このストレス、無くなると寂しい…、とても寂しい。それこそ、自分が自分で無くなってしまふんじゃないかと思うくらい。

自分がこのような状態にある時は、主に他者から見て『成功』と思われているその瞬間、その時期・タイミングです。

例えば…、中学生の頃から好きでギターを弾いていて、それだけで生計を立てていけるようになりたいと思い上京し、それが現実のものとなって、手にしたことの無いような額のお金が懐に入ってきた…。そうそう、確かにそう成りたかった。周りも今の自分を認めてくれている。お前はもう成功者だと肩をたたく人もいる。そうだ、自分はそう成りたかった。

ストレスが薄らいでいく…あのストレスが無くなっていく…。しかし、いつしかあのストレスが恋しくなってくる…。

『おい！、お前いつまでそこに居るんだよ』

そんな時、突然心が叫びだす…

最初はそんな叫びも宥め空かして、『そうは言ってもさあ…』と逃げしてみる。

しかし、その叫びは更に厳しい追い込みをかけてくる。

『何やってんだよ、そこに行けばいいんだよ、そこだよ！』

衝動的な感情は、ご丁寧にも行き先を指差してくれる。

『分かったよ、行けばいいんだろ？行ってやろうじゃないの！知らねえぞ！』

いつもこの辺で、開き直っている自分がいる。

そして、実際に行動に移す。全てが不確かなままに…。

今、私は山形県の小さな街に住んでいる。

客観的に見れば、子供も生まれ不安定な業界から離れ、そして妻の実家に近い所に住んで…、という『セミリタイヤ』に近い状態に受け取られるかも知れない。しかし、自分の心は攻め続け、自分に負荷をかけ続けているのだと思う。俗に言うところのステータスは脱ぎ捨て、初めての土地、新しい景色の中で、自分が何を『生み出すか』にのみ貪欲になっている。作品だけではなく、食、言葉、人の輪…、それらをどう作り生み出していくか。

私の場合、『自分らしく』とは、こうして動いていること。

評価の基軸を、他でもない自分の手元にしっかり握り締めていること。

そして、一つの人生で『何を残せるか』。これにのみ執着をすること。

今日もまた、自分の中の衝動が語りかける…

『ここまでおいで』